

第7回むつ市総合教育会議議事録

開催日時: 平成 29 年10月 30 日(18:35～19:45)

開催場所: むつ市役所 大会議室A

出席者: 宮 下 宗一郎 市長
宮 浦 雅 子 教育委員長
納 谷 順 子 教育委員
田 中 志 昌 教育委員
遠 島 進 教育長

欠席者: 村 中 一 文 教育委員

事務局	教育委員会	金 澤	教育部長
		須 藤	政策推進監(総務課長)
		和 田	副理事(学校教育課長)
		畑 中	総務課総括主幹
		吉 田	生涯学習課長
		中 居	学校教育課総括主幹
		木 村	中央公民館長
		石 澤	川内公民館長
		佐 藤	大畑公民館長
		三 上	脇野沢公民館長
		柳 田	図書館長
		福 山	総務課主幹
		柏 谷	総務課主幹
		加 藤	生涯学習課主幹
		石 川	学校教育課指導主事
市長部局	中 里	民生部長	
	坂 野	民生部政策推進監(市民課長)	
	伊 藤	民生部市民スポーツ課長	

1. 議事

事務局： これより、第7回むつ市総合教育会議を開催いたします。

はじめに、本日、村中教育委員が欠席となっておりますこと、ご報告させていただきます。

それでは、さっそく議事に入らせていただきます。むつ市総合教育会議設置要綱第4条第3項の規定により、市長に議長を務めていただきます。

市長、よろしく願いいたします。

宮下市長： まず、議事に先立ちまして、3点、私からご報告をさせていただきます。

1点目ですが、今年度始め、新任となった校長先生に対し、むつ市教育大綱の説明に伺って参りました。

その際、私からは、教育大綱の推進についてのお願いということで、「学力の向上」、むつ市への愛着と誇りを育む教育としての「ジオパーク学習」、学習に新聞を取り入れる取組としての「Newspaper in Education (N I E)」、「いじめ対策」について、校長先生方とディスカッションして参りました。

私の率直な思いとしては、学校の先生方の感じ方として、学校は学校、教育委員会は教育委員会という雰囲気を感じてその辺は残念に思いました。教育大綱の推進体制として、例えば、学校の運営方針の中に、教育大綱の中身のことがしっかり書き込まれているかということ、少なくとも見える化した形では書かれていない。言い方を変えると、現場ではきちんとやっていますといえるのかもしれませんが、大きな変換点に教育大綱がないということは、非常に残念な結果になってしまったかなと思っています。

市の方では、全体の行政計画として「むつ市総合経営計画」を策定いたしまして、PDCA

サイクルでしっかりと行政経営していきましようという方針に舵を切りました。

学校の方も、アウトプット重視の目標管理型ということで、そういう体制が必要ではないかと思えますし、そうでなければ、せっかく策定した教育大綱も絵に描いた餅になってしまうのではと強い懸念を持ちました。

特に、数字で表れる分野でいいますと、学力の分野で全国トップクラスとっている中で、各学校の目標があまりにも明確ではないということが言えると思えますし、仮に、明確にした目標があるとして、今年度どういう取組をするのかというのが非常に曖昧であるということが言えると思えます。

また、ジオパーク学習に関しても、予算を付けましたが、前年度と同じことをやるとか、あるいは、ちぢり浜に行って下北自然の家とセットで学習する。これは典型的にいつもどこでもやっていることなので、別にジオパークが始まったから取り組んだということでもない。というような事が多くて、これも非常に残念に思いました。

一方で、苫生小学校などはジオパーク学習に先んじて取り組んでいただいております。先般、ジオパークの全国大会でも取り上げられるなど、先生方のプレゼンテーションが大変好評を得ている。ジオパークを推進するために我々はやっているのではなくて、子供たちに地域をしっかりと学んでもらうという観点からやらせていただいておりますので、ここは教育委員会、教育委員の皆様にもぜひ推奨していただきたい。

さらにN I E、新聞による学習ですけども、各校ともどうしていいかわからないという話をされていて、正直、このままいけば税金の無駄というか、書道の下敷きにされるだけではないかという思いがしていて、これも何らかの形で早期の改善が必要だろうと。来年度の予算についてもしっかり検討しなければと思っています。

いじめ問題については、各校取り組んでいる

ということでありすけども、校長先生とディスカッションする中で私がお願いしたのは、認知件数は、どちらかというところでは下げる方向に働いていくのですが、決してそれが子供たちにとって良い方向ではないと私は思っていて、むしろ、よくいじめを発見する、認知をするということを全体での取組方針にしたらという話を提案して参りました。そのことは、私自身は、例えば、どこかの学校で去年の倍いじめが起こったという報告があっても、むしろそちらの方が自然だという捉え方をすべきではないか、というようなことで話をさせていただいています。

以上のことについては、私自身の権限として学校に対し個別に指示を出すということではできがたい部分ではありますが、これは委員の皆様の責任として、昨年1年かけてこの教育大綱を作りましたので、しっかり現場を見ていただいて、推進していただくように改めてお願い申し上げます。

報告の2点目ですが、私が通っております教育再生首長会議、全国の市町村長が集まって教育について議論しようという会議ですが、そこに文部科学省教育課程課長の合田鉄夫さんという方がいらして、大学入試改革と指導要領の変更について少しご示唆がありましたのでご紹介させていただきます。

大学入試改革については、大学の進学率は毎年上がっていて入学し易い状況にはなっていないが、社会に出ての必要なスキルということを考えて場合、大変高度化しているので大学での学びが必須であり重要である。よって定数の削減というのは、今、傾向としてはない。一方で、今、高校生の勉強時間が低下していて、大学での必要最小限の学力が確保できていない状況にある。そういう意味では入試改革が必要だ、との認識でありました。

その具体的な中身としては、「主体的・対話的で深い学び」を評価するため、現在の選択式から記述式の試験への移行、これは報道で繰り返

返しありますが、そういう形で大学入試サイドの出口が変更されるということになりますので、小学校、中学校からそういう学習に力を入れていくことが必要になるかと思えます。

合田さんからいただいたご示唆の2点目ですけども、小中学学習指導要領等が新しくなるこの話の中で、AIということに関しては、中々むつ市では問題意識は持ちにくい部分ですが、東京近辺に行くところこの話題というのはものすごく盛んに行われています。人間とAIの関係という中で、人間の強みが生きるような学習環境、学校教育をやらなければいけないということを非常に協調されていました。その中で、学びに向かう力、人間性の涵養をベースとして生きて働く知識・技能の習得、それらを用いて未知の状況にも対応できるよう思考力・判断力・表現力をつけるということで、アクティブラーニングみたいなものを小中学校で推奨するということが今回のポイントであるとのことでした。

ただ、合田さん自身もおっしゃっていましたが、アクティブラーニングのようなことは、心ある先生は昔からやっているというお話もあり、ただ、それを全体として進めていく中で、やはり今までの詰め込み型というよりも、しっかりと物を考えて、判断力とか表現力を高めていく学習・学校教育にしていきたい。というようなことを力強く述べられておりました。

この他、色々ありましたけども、私が印象に残ったのは、やはり伝統や文化に関する教育の充実を図りたいというお話があり、例えばという事で話がありましたが、幼稚園では、正月、わらべうたや伝統的な遊びなど、地域に根ざした伝統や文化に親しむ。小学校の社会科では、県内の主な文化財や年中行事の理解・学習に取り組む。まさにジオパーク学習のような話を、形を変えてされていまして、我々が教育大綱で進もうとしている道に間違いがないというか、これを先んじてやれば全国でも先んじてやることになるということで合田課長の講演を聴

かせていただいたところであります。

3点目ですけども、この総合教育会議ですけども、なかなか皆さんのご都合があわないので、本年度半年以上経過し、ようやく開催となりましたが、やはり教育大綱がどのような形で進んでいるのかというのは定期的にチェックしなければいけないと私は思います。そのことは各委員が責任を持ってやっていただきたい。これはどういう意味かということ、現場に行って校長先生とか先生方とディスカッションしていただきたいと思っています。そういう中で、もっとこうしたらとか、こうすべきではということをも是非やっていただきたい。それも含め、この会議も、やはり定期的に私はやる必要があると思いますので、そこは教育委員会の事務局が、今後しっかりと考えていただきたいと思っています。

議事の前に長々となりましたけども、私からの報告は以上とさせていただきます。

今の件について、ご質問とかご意見があればご発言いただきたいと思っています。

教育長いかがでしょうか。

遠島教育長： 今の話の中で、特にジオパークの取組についてですけども、ジオパークの取組というのは、私自身すべての学校で取り組むことがまず大事だろうと考えています。しかし、その上で、学校の様々な事情、教員の組織の状況などから考えると取組に強弱ができるのは仕方がないことなのかなと考えている訳ですが、そういう弱い学校からすると、これまでの活動の延長でということで先程おっしゃいましたが、そこだけでもやっていく事が、そして、全校で取り組んでいるという形を取ることが大事なのかなと思っています。

しかし、それがそのまま良いということではなく、先程ご指摘がありました、苫生小学校の例であるとか、田名部中学校の例であるとか、先進的な取組を広げて行くことが大事だと思っていて、そのことに力を入れて取り組んでいき

たいなと思います。

宮下市長： 私、その点はこういう風に思っています、要は取組に強弱を付けるということが必要であれば、今のやり方はちょっとおかしいのではないかと思います。要するに、生徒の数で予算を割って、それぞれにこれだけ使いなさいといったら、お金に色はないですから、あっちに使ったりこっちに使ったりするかもしれないし、ジオパーク体験学習とって遠足に使っているかもしれないし、そういう事をするくらいなら、例えば、各学校にこういうジオパーク活動をやりたいからこれくらいの予算が欲しいという形で申請をしてもらう方式の方が、ものすごく先進的な取組を支援することにもなるし、アイデアがたくさん出ることにもなるような気がします。一方で、中々今の状況では取組が難しいということであれば、今年はやらないというようなことでもむしろいいと思います。

全校で平等にやるというのは、かなりのこだわりが教育委員会としてはあるのでしょうか。その辺が私ちょっと理解できなくて、普通の補助金とか町の人達の補助金とかだとそれが前提じゃないですか、頑張る人を応援するというパターンが。特にお金もない中でその辺がちょっとよくわからないですね。

遠島教育長： 予算を出すからそれをやりなさいということではなくて、やはりジオパークの学習をさせることで子供たちへの地域や郷土愛を育てるとか、そういうことにとって非常にいい、大きな教材だという風には思っています。そうだとすれば、何らかの取組は市内の全小中学校で必要だという風な考えであります。

宮下市長： 同じ問題があって、ジオパークだけではなくてNIEにしても同じなんですよ。皆に配って、結局ほとんどできていない。そんな話になるくらいだったら、ちゃんとやります、

目標はこうです、こういう風な事でやるから学力も上がります、という話をきちんとできる学校だけにやらせればよいような気がするんですよ。子供たちがそれで不幸になるということは一方であるかもしれませんが、一箇所がやったら、親だって、他でやっているんだからこれからちゃんとやりなさいよ、ということになるし、最初から、満遍なく人数割りでお金を配っちゃったら、そもそもやっていくモチベーションが上がらないのではないかと思いますけど、どうなんでしょうか。それは教育のやり方として間違っているということでしょうか。

田中委員： 言っていることはすごく正しいなと思います。ただ、学校規模とか、多分マンパワーの問題で、例えば、ジオパークだけ考えた場合は、どうみても理科系の先生がある程度関与すると思うし、そうすれば小規模校でそれを担当できる先生の数が限られてくるので、大規模校であればいろんな先生がいてその能力を発揮する場があるような気がするんですが、小規模校だと何校もまとめて一人の先生、つまり、校外の専門の先生にある程度お願いするとかしてお膳立てをしてあげないと、各校に勝手にやれとお金をバラまくだけでは問題があると思うのですが、その前にお膳立てをしてあげるシステムを作らないと、先程言ったお金だけをバラまいてこれが平等だというのであれば、大規模校と小規模校の不公平さがついて回る気がするのですがいかがでしょうか。

宮下市長： それは2つあって、一つは小規模校だからそういうことが難しいというのは、あらゆる科目についていえることだと思うんですよ。結局、複式学級をしている学校は、正に授業半分ということになっている訳ですから、そこはある意味、地域も親も許容している部分があるかと。

もう1つは、奇しくも田中委員がおっしゃったように、校外のそういう形を、例えば市役所

のジオパーク推進課にしてもガイド員でもいいですし、そういうものを活用すれば、小規模校だってまとめてやれるという仕組みができる訳です。ところが、そういう仕組みも考えないで最初からバラまいちゃうと、それは何のインセンティブも働かない。これはN I Eとか、他の全部がそうですが、そういう風なやり方は、他の皆さんの専管分野について私は口を出す権限はありませんけども、少なくとも教育大綱に書いてあるような話についてはそういう風にしていただいた方がいいのではないかなと私は思います。この辺は、事務局でよく来年度予算の時に考えていただければと思います。

その他、ございませんでしょうか。よろしいですか。

それでは、少し長くなりましたけど、議事の方に入らせていただきます。

初めての会議ということですので、忌憚のないご意見をお伺いできればと思います。

本日は、『「むつ市教育大綱」における主な施策の中間報告について』を議題とさせていただきますので、まず、事務局の方からの説明をお願いします。

事務局（須藤政策推進監）： それでは、資料をご覧ください。

まず、趣旨でございますが、教育大綱を着実かつ効果的に推進していくため、P D C Aサイクルの考え方にに基づき、毎年度、重点目標を達成するために各施策を実施するとともに、総合教育会議において成果や課題を評価・検証し、その結果により次年度の施策の更なる推進や改善を図るものでございます。

本日は、9月30日時点における、教育大綱の4つの柱である、「学力の向上」、「体育・健康教育の充実」、「夢を育む教育」、「地域とともにある学校」を達成するための施策の内容、取組状況、K P Iの達成度についてのご説明となりますが、時間の都合上、口頭での説明は、学

力向上の基本であります「全国学力学習状況調査」と、今年度から取り組んでおります「新聞を活用した教育活動」、「小学校部活動のスポーツ少年団への移行」、「ジオパークに関する教育活動」の4施策とさせていただきますので、ご了承ください。

それでは、1ページをご覧ください。「全国学力学習状況調査」のKPI、平成33年度の目標値でありますけれども、「全国平均を3ポイント上回る」を目標と定めております。KPI達成に向けた平成29年度の取組状況、4月からですが、学力向上アクションプランで、分かる授業の実践、小中一貫教育による系統的な教育課程編成、学力検査の分析、個に応じた指導、活用する力を高める指導、家庭学習の習慣化に取り組んでおります。また、教員の授業力の向上といたしまして、教育研修センター講座、弘前大学との連携講座を開催しております。KPIの達成度、平成29年度の成果及び進捗状況でございますけれども、全国学力学習状況調査で、小学校6年生の結果でございますが、国語Aが全国平均を上回り県平均と同じ、算数Aが全国平均、県平均を上回っております。国語B・算数Bが全国平均、県平均を下回っております。続きまして中学校3年生の結果ですが、国語A・国語Bは、全国平均を上回り、県平均と同じとなっております。数学Aは、全国平均、県平均上回っております。数学Bは、全国平均、県平均を下回っております。

KPI達成に向けた今後の取組でありますけれども、学力向上の推進、活用する力を高める指導といたしまして、身近な生活の場面を用いて、質問の意図を読み取りポイントとなる情報を問題文や資料から読み取った上で、適切に思考・判断・表現する力の育成を図ることとしております。また、授業改善の促進といたしまして、活用力育成講座の新設、活用型問題集の改善を図ることとしております。

続きまして、2ページをご覧ください。「新

聞を活用した教育活動」でございます。平成33年度KPI目標値ですけれども、「児童生徒及び教員向けアンケートA評価60%」としております。

KPI達成に向けた平成29年度の取組状況でございますけれども、小学校5年生以上の全学級で新聞購読を開始しております。NIEガイドブックを各校に配付するとともに、教育研修センター講座においてNIEアドバイザーによる新聞活用に係る研修会を開催しております。また、東奥日報社の新聞記者による出前授業を15校で実施しているところでございます。

KPI達成度、平成29年度の成果及び進捗状況でございますけれども、新聞の購読率で、むつ市の小学校で7%、全国では9%。中学校では6%、全国では7%となっております。今後ですが、3月にアンケート調査を実施することとしております。

KPI達成に向けた今後の取組でございますけれども、年度末にはアンケート調査を実施し、各校からは活用状況に係る報告書が提出されることとなっております。各校の実践例の共有化、新聞を使った活用型問題集の作成、新聞感想コンクール等への参加促進を図ることとしております。

続きまして4ページをご覧ください。「小学校部活動のスポーツ少年団への移行」でございます。目標値を2つ置いておりまして、KPIの一つ目「指導者データベースの創設」でございますけれども、目標を平成30年度としております。KPI達成に向けた平成29年度の取組状況につきましては、指導者の負担軽減のため補助金交付要綱を制定、スポーツ指導者の把握調査を実施することとしております。次のKPI達成度、平成29年度の成果及び進捗状況でございますけれども、むつ市体育・スポーツ振興事業運営費補助金交付要綱を改定、スポーツ指導者資格受講料等補助金交付要綱制定、把握調査を実施しております。

KPI達成に向けた今後の取組でございますけれども、平成30年12月創設を目標に調査を継続し、関係機関との調整を図りながら、公募といたします。

次に、二つ目の「小学校部活動をスポーツ少年団へ全面的に移行」につきましては、平成31年度を目標としております。

KPI達成に向けた取組状況でございますけれども、他地区からの情報収集、市内各小学校からの聞き取り、教育委員会の基本計画を作成することとしております。

KPI達成に向けた今後の取組でございますけれども、教育委員会と校長会の合同会議において情報提供、これは12月を予定しております。むつ市連合PTA等に情報提供及び協力要請をすること。小学校スポーツ活動の指針を作成することとしております。

最後に資料9ページになります。先程、議論に上がってございましたけれども、「ジオパークに関する教育活動」でございます。平成33年度の目標値を「ジオパーク体験活動の参加者を、児童生徒の30%」としております。

KPI達成に向けた平成29年度の取組状況でございますけれども、4月に校長会でジオパーク体験活動推進事業について、バスの借上料、教材費等について説明しております。5月から10月にかけて各学校においてジオパーク体験学習をしております。その他、下北ジオパーク推進協議会教育部会へ参加をしているところでございます。

KPI達成度、平成29年度の成果及び進捗状況ですけれども、9月末現在になりますが、ジオ体験活動への参加児童生徒、小学校13校で全児童の28%、中学校9校で全生徒の95%、小中平均が53%となっております。体験活動推進事業ですけれども、小学校9校で全児童の25%、中学校5校で全生徒の16%、ジオサイトの見学先でございますけれども、ちぢり浜が8校、釜臥山が4校、脇野沢地区ジオサイトが

3校、芦崎が2校、安部城鉦山が1校、佐井村ジオサイトが1校、東通村ジオサイトが1校、下北一周が4校となっております。

KPI達成に向けた今後の取組でございますけれども、学習成果に係る情報提供の依頼、報告書の集約、これは3月に予定しており、各校の取組を情報共有することとしております。

以上でございます。

宮下市長： それぞれ委員の皆様からご意見を伺いたいと思いますが、まずは宮浦委員長からお願いします。

宮浦委員長： 学力調査のことですけれども、本当に一生懸命頑張っている様子が伺えて、皆様のご努力に敬意を表するのですが、肝心の活用力という所、最後ここで勝負という所で一つ課題があるので、考える子供、きちんと説明ができる子供、その所の力を付けて世に出してやりたいと思います。選ばれる時、入試なんかもそこが重点的になってくるという流れのようですので、今後の取組を早急に実行しなければいけないかなと。授業の改善のこと、指導者のこと、地域でも今これが大切なんだよということを皆で共有して子供たちを育てていかなければいけないと思います。

次に、新聞のことです。驚いたのは、新聞の購読は6%とか7%のレベルで、だからこそ学校で購読させるのでしょけれども、学校の文化祭に行った時に、かべ新聞を作っていることは良いことだなと思って見ていました。これも、全員が作っている訳ではないのですが、クラスのかべ新聞と個人のかべ新聞を作っていて、本当にこれは子供の力になるなと思っていて、少しでも多くの子供たちが、これに関わる学習ができたなら素晴らしいなと思います。書いている内容もそうですし、書き方、校正とか総合的な力に繋がっていくかなと文化祭で見てきて思いました。定着し、さらに大勢の生徒達にやって

いただければいいなと考えています。

次にジオパークですが、ジオパークに認定されて、その前と後では子供たちの故郷を見つける眼差しというのは全く違うと私は思っています。それをさらに深めるために、学校、先生方のふるさと教育というか、まずは先生達に勉強していただかなければと思います。ジオパークを子供たちに教えるには、地域の資源、自然もそうですし、文化、人、全部そういうことを分からないでジオパークという訳にはいかないのので、全体を巻き込んで、大人、先生達がまず味わうというか、地域に出て行ってやっていただかないと簡単にはいかないことかなと思っています。後は、親の啓蒙みたいなこと。子供たちを健やかに育てるために、今、私達が暮らしている下北の良さをいっぱい子供たちに感じていただかなければならないということを、親も含め皆で共有していかなければ、先生だけを責めるのではなく、地域全部で取り組んでいく体制が必要かなと思っています

最後に、11月に開催されるいじめフォーラムを、皆で考える機会として気持ちを一つにしていきたいと思っています。

宮下市長： 今、宮浦委員長から何点かご指摘がありましたけども、まず事務局にお伺いしたいのが、学力調査、活用力が重点的になってくるとご指摘が今の説明を踏まえてありましたが、その点についてどういった取組をされていますか。

事務局（和田学校教育課長）： 活用力に関しましては、やはり授業改善が一番かと思っています。子供たちの考えを深めるような発問を先生方自身が工夫することが第一ということで、先生方をお願いしているところでございます。

また、調査結果によりますと、話し合い活動であるとか、発展的な学習の扱いが、若干低い傾向にございますので、そちらも授業改善とし

て先生方をお願いをしていきたいと考えております。

宮下市長： ちなみに、その授業改善というのは具体的にはどういう改善がなされるのですか。

事務局（和田学校教育課長）： 我々のいうところの授業改善というのは、授業の進め方という意味になります。まず始めに、課題を設定して、課題を黒板に明記して、それに対して子供たち一人一人にその課題を考えさせる。その中でみんなとも考える時間を作る。それを交流する。そしてまとめていく。それが、黒板とかノートにきちんと明記されている。そして次の学習に結びつける。これが授業の流れとなっていますので、それを少しでも効果が上がるようにするのが、授業改善という考えになります。

宮浦委員長： 今、明確に説明していただいた中で、最後の一つなんですけども、最後にきちんと確かめるといふこと。それが、本当に子供に定着したかどうかを確かめることが大切かなと思います。いろいろありますけども、先生が確認すること、子供が確認すること、それが一致すること、その繰り返しが大切かなという風に思っています。

宮下市長： もう一つは、ジオパークの方で、先生達もやっぱりジオパークに関する知識、あるいはそういった地域に対する勉強が必要なんではないかというようなお話がありましたけれども、それについてはどういう取組をされていますでしょうか。

事務局（和田学校教育課長）： 取組という訳ではございませんけども、ジオパーク推進課の方で参考資料を作っていると聞いておりましたので、こういった資料を今後、使わせていただければと思っております。

宮下市長： 次に、納谷委員からお願いします。

納谷委員： スポーツ少年団の関連ですけれども、指導者の養成講座というのがあって、私もこの前受けてきたばかりですけど、たまたま知り合いの方が前回の養成講習を受けてきたという話を聞いて、そういう講習を受けられるという事がわかり、部活の顧問の先生にお願いして受けに行ってきました。川内だと特に人材が少ないので、スポーツ少年団に移行した時に、指導者とか団体の代表になる人達の確保がすごく難しいので、30年、31年を目指してというのであれば、川内とか脇野沢とか中心からちょっと離れた地区は、学校の方からも積極的に親御さんとか地域の方にこういう養成講座とか講習があって、それを受けていただくと団体で活動できますよとか、協力していただけますというのを教えていただければ、たくさんの指導者を集められると思います。

前回は川内で2～3人くらいの方が受けてくださって、今回は、私も含め4名が受けてきましたが、それを増やしていければと。自分の子供が、今、部活をやっていて興味があって受けてくださっているのですが、なるべく多くの方、若い方とか経験がある方に指導者になっていただくといいと思うので、PTAでもいいですし、学校の方からでもいいですので、年3回くらいあると聞いたので、こういう講習がありますとコマーシャルというか、お知らせいただければいいかなと思います。

宮下市長： この問題についてはですね、教育委員会と市長部局の民生部、両方の問題ですので、それぞれからどう取り組むかについてお話をお伺いしたいと思います。

まず、指導者の集め方、今後どうやって増やしていくかについて、教育委員会事務局からお願いします。

事務局（和田学校教育課長）： まず指導者の確保については、やはり一番大きな課題かと思っております。今後、平成31年度を目標に取り組みにあたって、むつ市連合PTA、各単位毎のPTAに情報提供と協力要請をしていく必要があると思っております。それは、私たち自身が赴く必要があるかと思っております。その際、いかにむつ市の小学校のスポーツ活動を進めていくか、その方向性を明示する必要があるかと思っておりますので、指針をしっかりと作った上で、協力要請していきたいと考えております。

宮下市長： では、民生部からお願いします。

事務局（中里民生部長）： ただ今のお話でいただいたのは、スポーツ少年団の認定員養成講座かと思っております。これは、スポーツ少年団設立に当たって、最低2名いなければならない資格ということでございます。私共としては、まず、認定員の養成、これになっていただく。スポーツ少年団を継続していくに当たって、また、これから作る方に必要ですから、これを受ける方については、講習料、テキスト代含めて全額を市で負担しております。ただし、交通費等はご自分でご負担いただくこととなります。

この講習会については、学校及び現在のスポーツ少年団の方々にご案内を差し上げて、受講の機会がありますよということでお願いをし、周知しております。ちなみに、平成29年度でございますが、現在のところ32名の方が講習会を受けられ、私共の補助金をスポーツ少年団から受けているという状況であります。

今後については、指導者バンクの創設に向けて一般公募を考えている訳でありますので、市のホームページや広報誌を通じての一般への呼びかけを検討させていただきたいと考えております。

宮下市長： お話をまとめると、まずは、むつ市連

合PTA、あるいは各単位毎のPTAに対してしっかりとこれから周知を図っていく、方向性も示した上で指導者の確保に努めていきたい。

一方で、現時点ではスポーツ少年団という中でご案内をされていて、これから一般公募も含めて範囲を広げていく。というような理解の中でやっています。

私が皆さんから聞いた範囲でいえば、方向性もまだ定まっていない状況ですので、この方向性が定まり次第、おそらく一気にそういう形で周知がなされ、心ある人達が応募してくれるような形になってくれるのではないかなと私自身期待しております。まだ、始まったばかりということで、その様に認識いただければと思います。

納谷委員： 後、新聞ですけども、娘とかに「新聞を使っている」と聞きました。すると、「廊下にあるよ」という話で、授業で使って何かしているのかと聞いても、「う～ん」という感じでしたので、新聞を活用して授業をすることが学校としてもちゃんと定まっていないというか、子供たちも新聞は廊下に置いてあるけどというぐらいの認識しかないので、やはり、学校ではこういう風に活用しようということをしっかりと決めて欲しいですし、子供たちも、せっかく新聞がそこにあるのに読もうという気持ちにも中々なっていないようなので、やるのであればしっかりと欲しいなと思います。実際、多分しっかりと使われていない状況かと思えます。

宮下市長： 私もそう思います。ただ、少しフォローさせていただきますと、この資料の中にあるのですが、東奥日報の記者の方々に15校で講演していただきました。私、そのうち苦生小の4、5年生の子供と一緒に聞いたのですが、大変すばらしい話をされていました。新聞の作り方、新聞の読み方、更には新聞が世の中に伝え

たいことということで、新聞が生きているような、そういう見方ができるような講演をされていました。私はその時に、子供たちに向けてメッセージを伝える機会があったので、自分は毎朝新聞と会話をしているよと、安倍総理が出てきてこんな話をしたら「それ嘘だろ」という話だとか、あるいは自分が出ていることがあるので、「これ言いたいことの半分も言えていないな」という話とか、それって実際に会話している訳ではないので、もちろん向こうからは返ってきませんがという話をしたら、何人かの子供たちからお礼状がきて、「すごく新鮮な話を聞けました」みたいな話がきていたのですが、まずは見方を変えるということが大事だと思うんです。ですから、東奥日報の方が積極的にそういうことをやっていただいているので、各学校が絶対1回はやった方がいい。プラス、その上で、この学習というのがどこに行き着くのかということなんですよ。これ、私が再度言うときに申し上げようと思っていたのですが、KPIで購読率がどうこうというのは全くKPIにならないので、要は新聞で学習したことによって何を学んだのか、それがどういう他の教育の、例えば学力の向上に繋がったかということで考えていくことにしない限りは、やっぱりうまくいかない。

最初の話に戻るんですけど、やっぱり皆に配るのは良くないんです、多分。ちゃんとやるという所にやれば良いというような気がするんですよ。私はそう思います。

事務局はどうでしょうか。

事務局（和田学校教育課長）： 納谷委員のご指摘は心に刻まなければならないなと思いました。

新聞の活用に関しては、二つの視点があるという風に私たちは考えておりました。一つは、新聞に向かう態度を育成する必要があるかと思っておりました。そういった意味では、まず、新聞に慣れる、読む習慣を身につける。これを

初年度と位置づけました。そして、徐々にですが、興味や社会的な問題に対して関心を持たせていく。その先に学習への波及効果が期待できるのではと考えておりました。

もう一点の視点ですけども、新聞の活用にあたって、まず子供たちは、新聞を通して何か新しい情報を知ることになるかと思えます。そして、じっくり読む教育活動が出てくるかと思えます。その上で、考える、表現する、いわゆる読解力とか語彙力とか表現力が期待されるかと思っておりましたので、こちらも息が長い取組になるかと思えますけども、是非、子供たちの取組であるとか、成長を見守っていただきたいなという風に切に願っております。

宮下市長： もちろんです。今の和田課長の説明につけているかと思うのですが、意気込みを石川先生からお願いします。

事務局（学校教育課石川指導主事）： 担当の学校教育課 石川と申します。

私も東奥日報の出前授業を何校か拝見させていただきました。また、学校訪問で、廊下や教室にある掲示物等を見ました。そうすると、主に小学校では朝の会でのニュース発表であるとか、そういった活動をされております。また、廊下に青森県の地図を貼って白地図に書き込むといった授業をされております。

また、中学校においては、全国紙と地方紙を比べる活動でありますとか、そういった発達段階に応じて、小学校5年生から中学校3年生の間で、それぞれ工夫されて活動をされております。

また、主に中学校ですけども、コンクール等への応募であるとか、小学校であれば、子供記者として記事を書いて、東奥日報に投稿するといった活動もされております。

そういった意味で、1年目ですけども、各学校で、それぞれの実態に応じて工夫しながら手

探りの状態で作業を進めているということがいえるのではないかなと思っております。

8月に、県のアドバイザーの小枝校長先生に来ていただいて、いろんな取組を紹介していただきました。その後、むつ市の取組ということで、東北のN I Eのアドバイザー会議でも当市の取組を紹介していただいて、今後、さらにいろんな点で充実を図っていく、そういう段階にあるというご指摘もいただいております。

まだ、発展段階の途中で、いろいろ試行錯誤しながらやっている段階かと思えます。また、出前授業については、衆議院選挙があった関係で、これからの学校もございます。

宮下市長： ありがとうございます。納谷委員よろしいでしょうか。

では、田中委員をお願いします。

田中委員： まず一つ目ですけども、私、就任してから1年経っていませんので私だけが知らないで周知の事実なこともあろうかと思えますが、小学校部活動のスポーツ少年団の移行ということで、私の知っている方で卓球を教えている方がおまして、その話を聞いた時に、そういう時代なんだと思って少しびっくりしたことがありました。その時に、今までは、学校で部活をやっていたら、どのお子さんも体育館までの距離がほぼ平等ですけど、これがいろんな地域からなってくると、場所までの移動手段と時間等の不公平な部分が出てきますし、また、全員が揃わないとできない部活があると思うし、個人競技もある訳で、例えば私の知っている人は卓球だったので個人競技に近い訳ですね、団体戦はありますがやるのは個人ですから。そういう部活によつての差というものもある程度考慮されているのかなというのが一つあります。

例えば、移動するのに交通手段として遠ければいろんな負担、時間的、経済的負担がある訳ですから、この辺の所をどのようなことで進め

ているのかなというのが一つあります。

もう一つは、先程のジオパークの件ですが、先程の説明だと、いろんな学習指導内容、資料があるという話をされたんですけども、例えば、むつ市は地図の中でもかなり広い、端から端まで2時間かかると思います。結局そうなってくると、学校からどこを見に行くかということでも、効率的かどうかというのがあります。先程の指導者の問題の中で、例えば行った学校の先生方の会議を持って、どこのどういう所が良かったということや、自分達の置かれている地域状況等から効率良くそれらを活用するためにどうすればよいか議論できる会議などがあればいいのではないかと私は感じました。

宮下市長： ありがとうございます。

まず、1点目ですけども、指導者を含めて、小学校の地域クラブへの移行については、しっかりとした方向性をこれから作っていかなければならないと思います。その中で、今、田中委員からご指摘があった移動手段の確保ということは、これは考える中で必須事項と思っています。例えば卓球ということであれば、場所も限られる訳で、あと何年かすれば新体育館もできる訳ですから、そこに集約するためにどういう形で移動させるのかということは考えなければいけないし、同様に、バスケットとかバレーとかそういうことがあるかもしれません。それは、野球とか外の競技にしても同じで、結局、個別の競技毎に、どの単位に集約するかも含めて、きめ細かに今後の方向性を付けていくことだと私は認識しておりますけれども、そういう認識でよろしいですね。

事務局（中里民生部長）： 若干市長のお話に補足をさせていただければ、今、まさに教育委員会事務局と、どのような形だとスムーズに移行できるのか、課題は何なのか、支援策はどうすべ

きかということを検討中の段階であります。その中で、各学校をまとめて一つの競技に誘う方法。それから、大規模校であれば学校単位で行うのが適切なのか。いずれにしても地域の方々の自主運営を促すということから、この辺を検討して参りたいと考えております。

宮下市長： 2点目の話については事務局から何かありますか。

事務局（石川学校教育課指導主事）： 様々なジオサイトがむつ下北に豊富にございますので、そういう点で、資料にあるジオサイト見学先、一つの学校が1箇所だけではなくて、下北一周、あるいは複数のジオサイトを見学されている学校もございます。そういった点で、それぞれの良さ、子供たちが現地に行って非常に充実した活動ができる。そういった情報を共有し合って、地理的な移動の時間が制約されますけども、どういう風な学習をここではできる。ここではこういう風なことを留意した方がいい。そういう情報を共有できれば、例えば教育委員会でイントラネットがありますので、そこにに入れていただく、それから報告書を出していただくこととなりますので、そういった情報を共有し合うという形で、今後、更に密度の濃いジオパーク学習ができるよう取り組んで参りたいと考えております。

宮下市長： ありがとうございます。今年度から、ジオパーク推進課ということで企画部の方でございますので、積極的にご活用いただいて、取り組んでいただければと思います。私、ジオパークの中で教育が一番大事だと思っていますのでよろしくお願ひします。

田中委員、よろしいでしょうか。

では、遠島教育長、お願いいたします。

遠島教育長： これまで学校は、むつ市教育プラン

を10年間取り組んできました。そして、今年度から新たな5年間の教育プランを策定した訳であります。

学校で校長が、学校の経営計画を作ろうとする時には、子供たちの状況がどうなっているのか、地域の特色はどうか、といったことを見ながら、まずは法律による学習指導要領に定められていることを見ながら、それだけではなく、県の教育計画・教育目標等ございますのでそれも参酌しながら。また、市の教育に関しては、むつ市教育大綱ができました。これまで、教育大綱というものがなく、新しくできた訳ですけども、むつ市教育大綱を実現するためには、教育プランに取り組んでいけばそれは実現できるだろうということで、校長先生達は自校の学校教育目標というものを作って取り組んできたのだらうと思います。というのは、一番下位の計画であるということからです。

それが、上位計画である教育大綱を意識した計画になっていないというような指摘がなされて、そして、個々についても取組が不十分であるというようなことが指摘された訳ですので、今後、もう少し教育プランと教育大綱との関係を整理しまして、指摘いただいたようなことを意識した、中に踏み込んだ学校経営計画を作ってもらい、取組を進めていただくようお願いをしていきたいなという風に思います。

宮下市長：最後に私からということですけども、PDCAサイクルでやっていただきたいということは、返す返すもお願いしているんですけども、KPIの設定はそれぞれあり、ただ、目標というか、それによってアウトカム指標として何をもたらされるのかという話が中々見えてこない。具体的にいえば、学力の向上の所で、全国平均を3ポイント上回ると子供たちはどうなるんですか。どんな大学に行けるようになるんですか。何を目指しているんですか。というのがよくわからない。そして、アクティブラーニ

ングについても、評価がAというところで60%を目指していますということで書いてはいるものの、それによって何がもたらされるんですかと。これは何を目指しているのか、要は学力の向上を目指してまあいいやというのか、地域学習的なことでやっているのかという、その部分がやっぱり見えない。

スポーツ少年団の移行というの、まさにこれはアウトカム指標そのものが何年に移行しますということだと思んですけど、だとすると今年までに何をやらなきゃいけないかということが、やっぱり段階を経て考えていかなければいけないという部分でそれが少し見えにくい。

ジオパークについても全く同じで、ジオパークを学習して何をやるんですかということが、もうちょっと考え抜いていかないとPDCAのチェックの部分とアクションの部分が中々うまくいかないような気がするんです。

これは、教育委員会だけじゃなくて、我々、市長部局も同じ悩みを抱えてはいるものの、そこを意識しないと、結局、現場に下ろした時に、やっぱり教育委員会がいったからやらなきゃいけないという思いと、やるんだけど自分の所にカスタマイズしてやるという部分と、やったフリをする部分と出てきちゃうと思うんですよ。そのアウトカム指標みたいなものを明確にしていくという作業が、この教育大綱を進めるにあたって非常に重要になってくるんじゃないかなと、私は総論として少し申し上げたいと思います。

後は、皆さんからのご指摘があったように、やはり廊下にあるだけみたいな状態から一歩抜け出す。スポーツ少年団も親が不安になっている状況から、段階的に移行していくという道筋をいち早く示す。ジオパークについて、ここに行きましたじゃなくて、行って何をしたか、何に繋がるかということまで考えていく。簡単にいえば、ジオパークは、中学生には受験のためになる。釜臥に行って火山の石を拾って何岩

だとやれば入試問題に出る訳ですから、そういうことを考えていかなければいけない。

そういう部分で、何のためにやって、このKPIを達成したことによって何がもたらされるかということ、それぞれでしっかり考えていただきたい。個別でも、全体としてもそういうことを考えていただきたいという風に思っています。

私からは以上ですが、特に見解は求めませんので、今後、日常的に議論する中で改善していければいいかなと思います。

宮下市長： ということで、教育大綱について、皆さんからご意見をお伺いし、それぞれの疑問点にお答えするという形になりましたけども、繰り返しになりますが、引き続きこれについては皆さんに注視していただいて、現場に足を運んでいただければと思っておりますので、よろしく願いいたします。

それでは、議事の方は以上とさせていただきますが、今年度、初めての総合教育会議ということでありますので、皆さんから特に何かあればお伺いしますがいかがでしょうか。よろしいですか。

ないようですので、以上を持ちまして議事を終了させていただきます。

宮下市長： 私から最後、一言。

最初に報告すればよかったのですが、実は、「まさかり高校医学部進学コース」という取組を、市の教育委員会の協力を得て始めました。

これは経緯があって、元々、今の公立高校再編過程の中で、医師不足を原因にして下北に医学部進学コースを作って欲しいと1年半ぐらい要望してきたのですが、それが中々叶わなくて、ただ、そうはいつでも我々はこれが必要だということで、市の財政的な措置の中で予備校の先生を呼んで、高校生を対象に、夏休みに3日間だけ特別講習をさせていただきました。これは、

今後も継続してこの取組をしていきたいと考えております。

といいますのも、田名部高校に進学している子供たちの今の実力から見ると、実は青森高校に行ってもおかしくない子達は何十人かいる訳でして、その子達がどういう環境の中で勉強するかというのが非常に重要になっています。医学部だけではないんですけども、医学部を中心として難関大学にしっかりとこの地から入れるような取組をしていきたいと思っています。

その中で、やはり小中とも全国トップクラスを目指していくこととなりますので、その点はこの場でご紹介申し上げたいと思います。

その中で、講習では代々木ゼミナールに来ていただいた訳ですけども、私、渋谷の代々木ゼミナールに行ってきました。代ゼミタワーという30階建てぐらいのビルなんですけども、上から下までシステム化されていて、上の方は寮なんですけど、その寮は、入ったらもう出られないんじゃないかって位きれいな景色で、浪人生が入っているのは、その下にサテライトで録画しながら子供たちが勉強する教室があって、その下に進路指導があって、教材を作るラボがあって、教材もそれぞれ各部毎に教材を作っていて、さらにサテライトで自主学習できる場所があって、自習室があって、個別指導があって、そのタワーを見ただけで、正直、この教育システムにいつになったら我々勝てるんだろうと思うくらいすばらしいシステムができあがっています。

でも考えてみると、そこで勉強している子達と、むつ市の小中から田名部高校を卒業する子供たちは最後は競争するんです。勝てる訳ないです、今のままでは。本当、そうです。だから小学校からちゃんと勉強させなきゃいけないし、そういう環境があるということも学んでいかなきゃいけない。それは、我々自身がそういった自覚の中でやらない限りは、もう既に圧倒的に都会とは差がありますから。あそこは選択肢が

いっぱいあるんです。学校の選択肢も予備校の選択肢も。ところがむつ市は、学校の選択肢がありません。公立高校しかありませんし、公立小中しかありません。予備校とかそういう所の選択肢も、ない訳ではないですがほとんどないに等しい。そういう中で学校の役割は非常に大きい訳ですから、全国に出て、ああいう所で勉強する子達に負けないような実力をどうにかして付けていきたいなど、すごくそういう気持ちになりました。何か上から下まで行くと頭が良くなった気持ちになる。それぐらいシステム化されている。そういう思いを皆さんと共有する中で、まさか高校をしっかりやらなきゃいけないですし、実は幼稚園くらいからしっかりとした教育をしていかなければいけないなどという思いになってました。

その部分は、敢えてこの場で、教育会議ということなのでお伝え申し上げたいと思います。その話については、また次の機会にじっくりお話しさせていただきます。ということで、今日の議事ということは以上とさせていただきます。

それでは、事務局の方にお返しします。

事務局： 市長、ありがとうございました。

本日の会議内容についてですが、この後、要点をまとめた上、むつ市ホームページにおいて掲示し、公表することとなりますこと、この場でご報告させていただきます。

事務局： 最後にその他となりますが、事務局から今後の予定をお話しさせていただきます。

本日、中間報告ということで絞った形のご報告でしたが、年度が進みましたら最終報告もさせていただきますと考えております。また、市長から冒頭に定期的にというお話もありましたので、会議のメンバーの皆様と日程調整させていただきながら、会議を開催したと考えておりますので、よろしく願いいたします。

それでは、以上をもちまして第7回むつ市総

合教育会議を閉会いたします。

本日は、お忙しい中、また、夜遅くまでありがとうございました。